



第1回

「まちづくりの取り組みから
学び、私の一步を考えよう」

日時:平成30年11月10日(土)

時間:10:00~17:30

場所:古民家サロン ばあば工房
名古屋港湾会館・ポットラックビル

講師:稲葉 久之さん
(フリーランスファシリテーター)

まちづくりびと講座（実践編）の第1回は、入門編から一步踏み込み、「まちづくりの取り組みから学び、私の一步を考えよう」をテーマに港区築地口にある古民家サロン「ばあば工房」さんで、住民主体のまちづくり活動を実践している方々からのお話を聴き、受講者が次の一步を踏み出すために「私は何をすれば良いか？」を考え、第2回目までの間に活動の実践に踏み出すことを目標に講座が開催されました。

♥ オリエンテーション <受講生の顔合わせ> ♥

港区築地口にある古民家サロン「ばあば工房」に集合した受講生の方々は、入門編から引き続き参加の方、過去の受講生で学び直しが目的の方、そして初めて参加された方と、その中には、イランから児童福祉や、都市計画を学びに来た留学生もみえました。一言ずつの簡単な自己紹介でしたが、古民家の和室の優しい雰囲気が、参加者の緊張感を和ませてくれました。



🌱 ばあば工房さんの活動のインタビュー 🌱



講師の稲葉さんの進行で、古民家サロン「ばあば工房」の建物の所有者でもある市橋さん（代表）、石川さん（事務局）、大熊さん（メンバー）に、活動のきっかけや、活動内容についてお話を伺いました。

稲葉：サロン作りのきっかけや、最初にしたことは？

市橋：両親が亡くなり、誰も住んでいないこの家に、時々風を通しに来たとき、母が友人をよく招いていたこともあり「建物が朽ちてしまうなら、人が集まれる生きた場所にしよう」と考えたのがきっかけでした。

まず、他のサロン活動を見学したり書籍・資料で事例を調べ、コミュニティスペースとして、どなたでも利用できるようにするため、玄関から二間続きの和室のオープンスペースに、利用者のための共用トイレや簡易キッチンを取り組みで設置し、居住空間としての奥の部屋のプライバシーを確保しました。



写真左から、市橋さん、石川さん、大熊さん

稲葉：サロンとして場所が完成した後「ばあば工房」の活動はどのように進めていかれたのですか？

市橋：私は仕事もしているので、母の友人であった方たちのほか、隣にいる石川さんや、大熊さんなどに協力してもらい、手作り工房の講座やイベントを企画したり、ここに居てもらうことにしました。

石川：私は、都市センターの「まちづくりびと養成講座」を、実は平成19年度に受講し、受講後に何か活動をはじめたいと思っていたところ、ちょうど市橋さんから声がかかり、このような場所を持ちたかった私も、是非お手伝いをしたい。と思い事務局を引き受けました。

稲葉：活動してきた中で苦労したことや、工夫したことなどはありますか？

市橋：最初は、この場所も知られていないため、開放していても誰も来ない日がありました。

石川：楽しめることをしようと、大熊さんが教えてくれる「さをり織り」の作品作りや落語会など、イベントを開催するうちに口コミで参加者も増えました。作品の展示会や落語会は、この部屋だけでは入りきれないほどになり、地域の他の会場を借りて開催しています。

稲葉：活動の内容や、規模も大きくなってきましたが、現状の課題や今後の展望は？

市橋：多くの方が参加してくれるようになり嬉しいことですが、活動の規模に対して、スタッフの人手が足りないことや財源がない事です。この先10年の事を考えると、建物の耐震問題、維持管理や、活動を継続していく為に助成金に頼らず、自立できる仕組みも考えていかなければと思っています。

稲葉さんの進行によるインタビューの後は、参加者からの個別質問にもお答えいただき、午前の部は終了しました。打ち解けてきた受講生は、移動途中の近隣の飲食店でランチで親睦を深めました。

🌱 午後の部：入門編の振り返りと参加者同士が知り合う 🌱



午後の講座は港湾会館会議室に場所を移し、初めての参加者もいるため7月に開催した入門編の簡単な振り返りとアイスブレイクでは、緊張をほぐすゲームをしながら、参加者が2組に分かれ、チーム内で各自の興味のある「まちづくりのテーマ」を紹介し合うなど、お互いを知り合う時間をもちました。



🌱 活動の成長のプロセスの紹介 🌱



「ばあば工房さん」で聞いた事例を基に、活動の進め方、成長の段階や、その時々に必要なことの講義を受けました。

「活動の成長のプロセス」として、「活動前（想いの醸成）」⇒「活動初期（トライアル期）」⇒「活動中期（事業展開・安定期）」⇒「活動中期（見直し・転換期）」⇒「成熟期」のステップに対して、「ばあば工房」のこれまでの経過が、それぞれどんな状況だったか？そしてその時期毎にどのように考えて動いてきたか、解説していただきました。



🌱 個人の活動の振り返り&次の一步を考える 🌱

ここからは各自が、振り返り、用紙に記入する作業時間になりました。自分の関心のあること・活動の内容・活動の目標・現在の段階・次の段階、について各自で考え用紙に記入しました。その後、各グループ内でひとり15分ずつの持ち時間で、記入した「自分の活動のふりかえり」を発表し、お互いに発表内容を聞き、質問し、活動の実践に向けての応援の言葉をかけ合いました。



各グループは4人の少人数でワークをしたことで、率直に不明な点を質問し、本人は気づいていない視点を変えての客観的なアドバイスや、全く違う活動でもつながると面白いことができそうな事、一緒に組んでコラボできそうな発想など、グループ内では、真剣に相手のことを考えて、活動に向けて前向きな話し合いができました。



🌱 目標の発表タイム 🌱

最後に第2回の1月19日(土)までに、各自が行動する「次の一步・実践する目標」を各自が書き出し、宣言タイムで全員がそれぞれ発表しました。

稲葉さんからは、「目標は実際にどこまでできるか分からないけれど、住むまち、地域で実践を試みて欲しい。そのうえで、次回の講座では、「活動できたこと、できなかったこと」の結果の報告とその理由も含め、参加者で共有し考えていきたい。」とまとめられワークタイムは終了しました。



🌱 アッセンブリッジ・ナゴヤ2018の鑑賞 🌱

港まちの賑わいづくりの一環として行われる「アッセンブリッジ・ナゴヤ2018」のクラシックコンサート（出演：クインテットレガロ、会場：金剛寺）を鑑賞しました。管楽器ならではの繊細な音色でお寺の和室の穏やかな空間で行われたミニコンサートを堪能し、参加者は、港まちづくり協議会が地域を巻き込み、行政と協働で取り組むアートのまちづくり活動を知ることができました。

🌱 港まちポットラックビルディングの視察 🌱

最後に、港まちポットラックビルに移動して、港まちづくり協議会の活動や取り組みについての話を元事務局の稲葉さんから紹介、質疑応答の後、アッセンブリッジ・ナゴヤ2018の現代アート作品の鑑賞を行い解散となりました。



★後記

第1回実践編は、実践者の話を聴くこと、取り組みを見る事で、あらゆることに触れることができたように思いました。解散後も、ポットラックビル内に留まって、参加者同士が話し合う姿が見られ、「自分のこと・相手のこと・まちのこと」など、色々考えを深められた1日になったのではと思います。

